

## ○●○肢体不自由の障がいについて知ろう○●○

病気やけがなどによる麻痺や欠損等により、上肢や下肢・体幹などの運動機能の一部または全部に障がいがあるため、起立、歩行、階段の昇降、物の持ち運び、机上の物の取扱い、書写、食事、衣服の着脱など、日常生活の動作や姿勢の維持が不自由な状態をいいます。

病気や事故で脳に損傷を受けた場合には、言語障がいや記憶力の低下等を伴うこともあります。

### 困っていること

- ・ 車いすを利用していると、段差があったり、通路に物が置いてある時に移動できないことがあります。
- ・ 高いところにあるものや床にあるものなどを取ることが困難です。
- ・ 手に麻痺があると、文字を書いたり、お金の扱い等がうまくできません。
- ・ 一定の体温を維持することが困難な場合、部屋が寒いと感じても、体温調整ができません。
- ・ 言語障がいに加え、顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いてしまう場合（不随意運動）は、コミュニケーションをとるのが難しいです。

## サポートするときのポイント

- ・ 肢体が不自由な人の障がいの部位や程度はさまざまで、個人差があります。まずは、視線の高さを合わせて、サポートが必要かを確認めた上で支援しましょう。
- ・ 車いすを押す場合、動かすときや止めるとき、進行方向を変更するときは、事前に声をかけましょう。車いすに乗っている人は何が起こるのか予測が付き安心してることができます。
- ・ 体温調整の難しい人のため、自分が適温だと思っても、「寒くないですか」などと確認をするようにしましょう。
- ・ 言語障がいがあり、話されていることがわかりにくい場合は、わかったふりをせず、文字で書いたり、丁寧に聞き返したりして、きちんと内容を確認しましょう。

## 災害時にサポートするときのポイント

- ・ 車いすが使用できない、担架が用意できない場合は背負ったり、抱えて移動したり、毛布やシーツに乗せて移動しましょう。周囲の方と協力して安全に介助しましょう。
- ・ 杖などが使用できない場合は段差が少ないところ、濡れていないところを選んで本人のペースに合わせて誘導しましょう。
- ・ 避難所では車いすが通れる道を確認しましょう。段差は板などを利用して、スロープを作ることによって解消が出来ます。
- ・ 食料や飲料水の支給が遅れがちになるため、必要な情報や物資の伝達や支援をしましよ

う。

- ・ 避難所に洋式トイレがない場合、近くの洋式トイレがある場所まで移動のサポートをしましょう。
- ・ 体温調節が難しい方もおられます。夏場は涼しい場所、冬場は首にタオルや毛布を利用して、適切な体温調節ができるようにしましょう。